

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建 三

JR東労組

本部OB会

ニユース

No.247 2017年9月発行

支部OB会の代表者が ブロック別に初めて集合 ＝エルダーや財政の悩みを話し合う＝



東北ブロック支部OB会代表者会議 (盛岡)

この「支部OB会代表者会議」は昭和採用の組合員が退職した後、平成採用の組合員が退職するまでの約10年間

会議の目的

会議は古川会長が主催者の挨拶を行った後、伊藤事務局長から「会議の目的と今後の考え方」が示され、それを巡って討論が行われました。

会議には東関東は24名(12支部OB会)、西関東は21名(11支部OB会)、上信越は21名(12支部OB会)、東北は31名(21支部OB会)の総勢97名が参加しました。

本部OB会は8月23日からブロック別の4会場で、支部OB会の代表者が初めて集まって会議を開催しました。この「支部OB会代表者会議」は、昨年まで9年間に亘って開催されてきた「ブロック別地本OB会三役会議」に代わって、開催される新しい会議です。

この会議では、今後OB会員の減少と高齢化の時代を向かえるのに対応して、OB会活動の拠点が支部OB会に序々に移行していく事に対する意見交換を活発に行いました。

OB会に加入する人がいないので「会員減少と高齢化」に対応する対策を考えるために設けられました。

4つの具体的な対策とは

- ① 会員が減少する前に、エルダー組合員を拡大する。
- ② 支部OB会へ活動の軸を徐々に移行する。
- ③ かつての仲間の単組OB会と交流する。
- ④ 日本退職者連合との連携を強める。

会議で出された意見

会議では、エルダー組合員の拡大と支部OB会の強化について集中的な議論を行いました。

- (1)エルダー組合員の拡大について
- エルダー組合員継続の手続きは、現役にしかできない
- 会社との面談後に手続きをしているので組合を脱退する人が多い
- 組合主催の退職者激励会に参加する人が減ってきている。
- OBが家庭訪問して、エルダー組合員をOB会に加入させた。

- (2)支部OB会の強化に関して
- 情報を郵送したいが財政難なので昨年の助成金は大変助かった。
- 支部に書記さんがいないので、事務所が閉まっている時が多い。
- 役員交代期にきているが、次の担い手で頭が痛い。
- 各支部OB会の持ち回りでレクを開催して喜ばれている。

まとめは合同会議に

今回の会議で、財政問題は共通の悩みなので、本部OB会は今後も各支部OB会に助成金を出す。

エルダー問題に関しては現役が大きく絡む問題なので、本部OB会の役員会で討議した内容を10月4日に開催される「JR東労組OB会幹事会・各地本OB担当者合同会議」に報告する。

初めての会議でしたが、同じOB会強化に向かって進む意思統一も出来、来年も開催して更に内容を深める事を約束して閉会しました。

ブロック別「支部OB会代表者会議」日程

東関東	日時	2017年8月23日・13時
	場所	中央本部大会議室
西関東	日時	2017年8月24日・13時
	場所	中央本部小会議室
上信越	日時	2017年8月26日・13時
	場所	高崎地本会議室
東北	日時	2017年8月30日・13時
	場所	盛岡地本会議室

ソウル地下鉄労組に招待され OB会結成に向け意見交換

退職前のシニアで結成準備を進める

JR東労組OB会は、8月9日から3日間の日程で韓国の「ソウル地下鉄労組結成30周年記念集会」に、JR総連の榎本委員長と山田国際部長、それにJR東労組の吉川委員長と伊藤事務局長が招かれた。OB会の古川会長と伊藤事務局長が招待された。

本部OB会は、2012年9月にソウル地下鉄労組を13名で訪れ、初めて韓国の退職者と交流を行いました。それ以



挨拶をする榎本委員長(右端は通訳の鈴木書記)

降「韓国にも退職者組織を…」と云う気運が生まれ、ソウル地下鉄労組の組合員がJR東労組本部を訪れる度に、機会を創っては交流を行っていました。

今年ソウル地下鉄労組は「組合結成30周年」を迎え、8月10日19時から「君子車両基地」内で、大勢の組合員が参加して、闊い歴史を映像やスピーチで振り返りながら組合結成30周年を祝い、これからの30年を創り出そうと決意を新たにしました。日本から参加した5名も紹介され、代表してJR総連榎本委員長が連帯の挨拶をしました。

またこの記念集会に先立ち16時から、ソウル地下鉄労組本部の会議室で古川会長、伊藤事務局長が参加して、ソウル地下鉄労組退職者組織化準備会の委員と意見交換を行いました。

意見交換会では、JR東労組OB会の活動が報告され、韓国側からはシニア組合員への宣伝活動や財政等、結成に向けた課題や悩みが報告されました。

今回の訪韓で、ソウル地下鉄労組にOB会の結成がまた一歩前進した事が確認されました。

今年も原発避難者と交流しました

台風の影響が心配された8月9日、仙台地本・米沢地区OB会(長尾浩会長)が、今年も福島第一原発事故で福島県から米沢市に避難している人達を招いて、「避難者支援夏祭り」を万世コミユニティーセンターで開催しました。

この催しには、米沢地区OB会の外に隣接の福島支部OB会や青年部の若い組合員など18名が参加して、盛大に開催しました。

今年で6回目になる「原発事故避難者支援祭り」は、例年好評の「流しそめん」や「綿あめ」「ポップコーン」「スーパードールすくい」などの外に、今年はスイカも振る舞い、子供達や保護者等参加した大勢の人達を喜ばせました。特に約8皿のレーン流れる「流しソーメン」は子供達には大人気で、時たま流れてくるミニトマトには驚きながらも、大ハシャギでした。遠く福島県から避難してきている子



流しそめんを楽しむ大人や子供達

供達も、この日はやはり楽しそうに「流しソーメン」っておいしいネ」と、口いっぱいに頬張っていました。またこの様子を見つめていたOB会員の顔も、いいお爺さんの顔になっていました。

(仙台地本米沢地区OB会)

わが町の 有名人

千葉地本OB会 会が紹介する人
千葉地本OB会
「地域のコー
ディネーター」
として館山市で活躍している小池
利夫さんです。

小池さんは群馬県出身で、地元の国鉄バスに就職した後、千葉でバスの運転士をしてから東京の営業職場で助役として働き、大宮支社を最後に退職しました。退職後は健康維持のために、地域の「ラジオ体操の会」や「館山

地域の名調整役

歩こう会」に入って、身体を動かしていました。現在の小池さんは、退職者の中でも若い世代の人達を中心になって超高齢化社会を支えなければならないと思っています。

地域のコーディネーター役を買って出て、地元の高齢者の世話活動を行っています。

特に近所でも一人暮らしの家庭も多くなっているの、仲間と一緒に



独居老人の家庭を見回ったり、相談相手になってお世話をしています。また毎朝NHKのラジオ体操を国民休暇村の広場で行っており、20、30名の老年寄りが喜んで参加しております。

地域のお年寄りからは、「若いのによくやってくれる」と感謝されています。「自分が変われば、世の中も変わる」をモットーに、今日も元気に飛び回る小池さんでした。

(千葉県館山市在住・小池利夫・68歳)

JR東労組OB会幹事会 合同会議
OB 担当者
・日時 2017年10月4日(水)13時
・場所 目黒さつきビル 会議室
エルダー、OB会組織強化等を
話し合います

横浜地本OB会の松山英司氏編集の 絵鳩 毅氏の証言集を発刊

撫順の奇蹟を受け継ぐ会の神奈川支部長の松山英司さん(大船支部OB会)が、敗戦後シベリアの捕虜時代と戦犯として中国に抑留されていた時代を証言した絵鳩 毅氏の話編集して発刊しました。

購読希望者は
松山英司さんまで (046-871-4263 TEL/FAX)
価格 1,900円